

## 北杜市立中学校再編整備検討委員会（第6回会議） 会議録

1. 会議名：北杜市立中学校再編整備検討委員会（第6回会議）
2. 日 時：令和5年11月2日（木）午後7時00分～
3. 場 所：北杜市役所 北館3階 大会議室
4. 出席者：  
（委 員）保坂智之・小寺亜希子・望月貴光・鈴木良長・堀込美友・石川博之  
萩原長人・日向五十鈴・前田久美・小林明・輿水清司  
（事務局）進藤政策推進課長・日向行政改革担当リーダー  
加藤教育部長・鷹左右教育総務課長・  
進藤教育指導監・浅川総務担当リーダー・大久保総務担当
5. 議事  
（1）中学校の再編整備に関わり検討する視点について  
（2）「生徒の教育環境」の視点  
（3）「学校の教育指導」の視点  
（4）「生徒の通学」に関わる視点  
（5）「学校と地域との関わり」の視点  
（6）「学校施設・設備」の視点  
（7）「移住される方」への視点  
（8）その他
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：1人

## 議 題

### (1) 中学校の再編整備に関わり検討する視点について

(委員長) ただいま事務局から、7月のPTA保護者、教職員を対象とした説明会の質問、意見を踏まえた6つの視点について説明がありました。この内容につきまして、何かご質問、ご意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、(2)「生徒の教育環境」の視点、(3)「学校の教育指導」の視点については、関連がありますので、一括して、説明を求めたいと思います。お願いします。

### (2) 「生徒の教育環境」の視点

### (3) 「学校の教育指導」の視点

(委員長) ただ今、事務局から説明がありました。この中身につきまして、ご質問、ご意見ありますでしょうか。

(委員) (2)(ア)の改善の方向性で「入学の際、新たな人間関係を築くストレスに対応した支援や配慮が望まれる」というのは、まさにその通りだと思います。関連して、卒業生に話を聞くと、高校生に行ってどういう風に友達と作っていいかわからないとか、人間関係の作り方に戸惑うとか、そういうことを、中学校に来た時に話している子たちは多いです。多くの子たちが高校進学して社会が広がるということがある中で、学校生活でのつまづきや、過ごしづらさ、生活しづらさを感じている子たちが、実際にいると感じています。高校生にアンケートを取っているわけではないので、実態は正確にはわかりませんが、私たちの耳には、そういうことが聞こえてきています。

(委員長) 子どもによっては、高校入学の時が初めて新しい人間関係を築く場面になることがあり、戸惑う子たちもいるという、事例をあげてもらいました。今のご意見について、何かありますか。よろしいでしょうか。また後で気づいたことがあれば、言っていただいても構いません。続きまして、(4)「生徒の通学」に関わる視点について説明をお願いします。

### (4) 「生徒の通学」に関わる視点

(委員長) ただ今、事務局から説明がありました。何かご質問、ご意見ありますでしょうか。  
北杜市内にはスクールバスが走っている学校が何校かあるわけですが、その実態がどんな形になっているのかということは、とても関心があったところです。家から停留所まで、停留所から学校までということで、調べてもらっていますが、スクールバスに乗っている距離は16キロ以内ということですが、高根中から清里駅までが、一番長い距離を走っていると思いますが、バスには30分程度乗っており、通学時間としては60分以内に入っ

ているということです。

徒歩、自転車の通学時間も少し長い方もいるようです。加えて、基本は徒歩ですが、中には送迎してもらっている子もいるのではないかと感じています。特に最近はいノシシとか、猿とかが出てくるといようなこともあるので、心配して送迎をしているということもあると思います。

このような状況ということですが、何かありませんでしょうか。また、何か気づいたらお願いします。

では、5 ページの対応の方向性のところですが、文科省が1つの目安を示しており、自転車、徒歩による通学は、小学校は4キロ以内、中学校は6キロ以内となっています。北杜市の現状から見ても、この目安は妥当であると考えられます。通学時間については、おおむね1時間以内を一応の目安とした上で、実態に合わせて考えていく必要があるとされています。これは、町場と田舎ではだいぶ状況が違いますので、一概には言えない部分ですが、一応の目安は示されているということになります。

このような考え方や北杜市の実態を踏まえる中で、今後、水平統合を進めていく場合には、スクールバスはどうしても必要になってくるわけですが、その通学距離と通学時間は、6キロ以内、概ね1時間以内という線を持ちながら、これを超える場合には何らかの手立てを考えていかなければいけないということになると思います。

ただ、実情を見てもらうとわかりますが、スクールバスは6キロ以内であったら出ていないということではありません。これまでの色んな経過の中で、5キロであってもスクールバスを利用している子供たちもいるので、それぞれ何キロということではなくて、必要が出てくる場合については、それはそれで考えていく必要があるとは思っています。

それと、スクールバスを導入する場合に、保護者から出された様々な意見をまとめると、6ページのような配慮事項が考えられます。これらについて、何かお気づきの点がありましたらお願いします。

(委員) 高根中学校はスクールバスを導入しています。平成30年までは朝は1便しかありませんでした。平成30年に清里の保護者からの強い要望があって、部活動の朝練の始まる7時半までにもう1本出せないかということで、検討をして増便しました。

すべての家庭が思う通りにするのは難しいので、話し合う中で、なんとか送迎の時間を減らすとか、子供たちが歩いてなんとかそのバス停まで行ける距離でバスを出すとかという工夫が必要だと思います。

朝2本出すというのはとても大変なことですが、やはり頑張る子たちは朝練に出たいということがあります。もちろん朝練は強制ではありませんが、出たいとなるとスクールバスを要望する保護者の方も出てくるといことがあります。そういうところは、丁寧に対応する必要があるという風に思っています。

(委員長) ありがとうございます。スクールバスを朝練に対応できるように改善したということですが、これからは働き方改革との兼ね合いもあって、それ自体が、1つの課題になろうかと思います。一方で、スクールバスができることについては対応していきたいと思います。

(委員) 本校では、今年になってから、自転車の数が若干増えたという印象があります。登り下りが多いので、女の子の2人は、電動付きの自転車を登下校で利用していますが、全体としては親御さんの心配もあり、送迎が半数くらいいる印象です。小学校は、ほぼ送り迎えということを知ったことがあります。中学校になって、自転車通学を初めて経験する子供たちですから、やはり交通事故の心配等もあるので、それよりはスクールバスの方が、安心して登下校できるのではとも感じています。

(委員長) スクールバスを心配する親御さんもいましたが、スクールバスになることによって安全が確保されると考える親御さんもいたかなと思います。その他はよろしいでしょうか。説明会の中では、一番意見が出たところです。今の時点では、対応の方向性が確認されたということで、先に進めさせていただきたいと思います。続きまして、(5)「学校と地域との関わり」の視点ということで、事務局から説明をお願いします。

#### (5)「学校と地域との関わり」の視点

(委員長) 「学校と地域との関わり」ということで事務局から説明がありました。この点についても保護者から多くの意見が出されましたし、これから行われる地域の説明会でも関心が高い部分ではないかと思っています。最初に、7ページの現状で、子供と地域の関わりがあげられています。全国学力・学習状況調査で「地域の行事に参加していますか」という質問では、全国は38%、北杜市は64%で非常に高くなっています。この部分をどう考えるかということですが、先ほど説明があった通り、地域の子どもクラブ等で行事に参加していることが大きいのかなと思いました。子どもクラブの加入率は72%となっています。そういう特徴を北杜市の子供たちは持っているということになります。一方で、徐々にその加入率が少なくなっているという現実もあります。実際、子供が少なくて組織できなくなっている地区がいくつか出ていたり、子供や親によっては加入しませんと言っているところがあったりします。あとは、学校運営協議会が始まってこれから本格化していくということ、原っぱ教育と北杜學のことがあげられています。これらのことについて、何か質問、ご意見等ありましたらお願いします。

(委員) 私たちの区においては約90%が子どもクラブに入っていて、子供の行事が活発に行われているところです。夏のスポーツに関しても、保護者が熱心に活動しています。

(委員長) 小さい頃から、地域の行事を通して、地域の大人の皆さんと関わることは、とても大きなことだと思います。

他、どうでしょうか。では、対応の方向性の部分に入っていきたいと思います。様々なご意見の中で、身近な地域から中学校がなくなると、地域から中学生がいなくなる、地域の衰退につながるというようなご意見があります。当然、地域に学校がある方がいいとは思いますが、そうは言っても、現状を踏まえた時に、歩いて行ける距離に中学校がなくなっても、北杜市の中に中学校があって、その中で、子供たちが活発に色んな学習活動ができるということは、とてもいいことだと思っています。また、子供たちが北杜市という広がりを感じることで、住んでいる地区の良さをかえりみるようになるということもあるのかなと思っています。そういう考え方についてはどうでしょうか。

保護者の中には、身近な地域から学校がなくなると、保護者や地域の人と学校との距離が広がって、疎遠になっていくのではないかという心配を持たれている方もいました。

(委員) 小学生は地域の人がよく見ているし、地域の人が学校に来て一緒に色々していると思いますが、中学生になると地域の人がそこまで学校に来ている印象はないです。そうであれば、自分の地域から外へ出るべきで、そこで自分の地域の良さを知るといってもいいと思います。

例えば、県外に行った時に、やっぱり白州の水はおいしいよね、という話をしますが、そういうことに気づけるということもあるので、自分の地域から出て、周りを知る、自分の地域の良さを知るといことは、重要だと思います。

(委員長) 保護者からいただいたご意見の中には、地域から学校がなくなると子供たちは北杜市からどんどん出ていってしまうのではないかというものもありました。私は、先ほど委員が言われたように、外へ出て初めて自分の地域の良さを実感できるものなのではないかと思っています。なので、1度出ることによって、改めて良さを知り、こちらへ戻ってくる、ということを私たちはもっと目指すべきなのではないかと思っています。最初から良さに気づいている子には、当然いてもらっていいわけなのですが、地域の広がりというのは、そういう意味も持つのではないかと感じています。

他、どうでしょうか。

(委員) 小学校では、地域の人たちに、読書ボランティアや、登校に関わる部分、学習に関わる部分等、大変お世話になっておりますし、成果もあがっている現状です。中学校になった時の地域の関わりについて、資料にあげられていますが、今一生懸命小学校に関わってくださる方は、中学校がなくなると私はやる事がなくなっちゃうのかなという疑問を感じているのだと思います。そうではなくて、子供たちが色々な人たちと出会うということの中には、大人の地域の広がりもあって、そこに協力していただくことを、学校からもお願いしたり、そのことを前向きに考えてくださる人たちにどんどん入っていただいたりする体制づくりをしていけば、学校が地域からなくなることの寂しさとか疎外感といったことが薄れていくのではないかと思います。現状、ボランティアに関わっている方々の気持ちをくんで、続けていけるようにしていただければと感じました。

(委員長) 地理的、距離的には遠くなるわけですが、その分、学校としても色々な要請をしたり、関わりを持ったりすることを広い地域で展開していくという姿勢を持つ必要があるというご意見かと思います。統合することによって、身近なところから学校がなくなれることをマイナスに捉える方も当然いるのですが、それを逆にプラスに捉えて、色々な取り組みを進めていければと思っています。この部分についても、付け加えがありましたらよろしくをお願いします。  
では、(6)「学校施設・設備」の視点について説明をお願いします。

## (6)「学校施設・設備」の視点

(委員長) 事務局から説明がありました。まず、施設の状況等について何かご質問、ご意見ありましたらお願いします。  
各学年4クラスを想定すると、普通教室は12クラス、これに特別支援教室3クラスくらいできる可能性があり、それ以外にも色々な支援を必要とする子のために部屋を取ると、17クラスの学校施設の規模が想定されるということです。これを今の学校施設に入れることは厳しいという状況になっています。新しい環境で学ぶということも大きな学校の魅力になるのではということも感じています。

(委員) この現状でいくと、新築が必要ということになると思いますが、TTができる教室の想定もぜひ加えていただきたいと思います。お金はかかりますが、学年3～4クラスの規模になると、教科の先生が複数いるので、甲陵中のように、半分の人数で授業するという事も考えられると思います。やはり教室は、ギリギリの数ではなくて、プラス1が必要と思うので、そういうこともぜひ検討していただけると、子供たちにとって素晴らしい環境になるのではと思います。

(委員長) クラスを分けて授業をする場合は、教室がなければできないので、余裕教室があった方が、色々な形態の授業ができるというご意見でした。そういう形ができれば望ましいと思います。他にも、明野中、長坂小のように、授業ができるくらい廊下が広いというような作り方もありますし、多目的に使える場所があると、工夫した授業がしやすいと思います。  
他、どうでしょうか。

(委員) 素朴な疑問ですが、老朽化している須玉中は、ずっとこのままになるのでしょうか。それと、17クラスというと、葦崎西中がほぼ同じぐらいの規模で、学年4クラス、特別支援が3クラスだったと思います。モデルになる学校の様子も調べていただくと、参考になると思いました。

(委員長) わかりました。須玉中については、築53年で、耐震改修、大規模改修も実施していると思いますが、今後はどうなるのでしょうか。

(事務局) 基本的には、建築してから20年ごとに手を入れていき、最終的には80年使いましょうということになっています。須玉中の場合は、平成12年に手を入れていますので、ちょうど今年で20年経過しています。本来は、手を入れる時期ですが、再編整備があるということで、しばらく状況を見ているところです。

(委員長) 他、どうでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、(7)「移住される方」への視点の説明をお願いします。

## (7)「移住される方」への視点

(委員長) ただ今、説明がありました。PTAの説明会では、小さい学校へ魅力を感じて、移住してきたという方も一定数いらっしゃるということで、大きい学校を経験されている方は、小さな学校に対するそのようなイメージを持たれる方がいて当然だと思います。私も、小学校であれば、大きな意味があると思いますが、中学校は中学校で色々な実情があるので、それを理解していただくために説明を丁寧にしていくということと、それから、これから移住することを考えている人たちに状況をお知らせしていくことは、大事だと思います。

このような考え方に対して、何かご質問、ご意見がありますでしょうか。

(委員) 移住を考えている方に対して、統合が予定されていることをお知らせしていくことは、それはそれでいいと思いますが、率直な感想としては、そもそも移住相談に来た人から、中学校がどうなっているかという質問を受けることはあまりないと思います。なので、中学校が小さくて近くにあることが、移住先の魅力と感じている人は、そこまでいないのではないかと感

じました。

(委員長) 実際の数としては、そこまで多くないのかもしれませんが。  
ただ、このようなご意見はいただいているので、説明はしていくということ  
でよろしいでしょうか。  
他、どうでしょうか。今回は、保護者や教員への説明会で出されたご意見  
を踏まえて、対応の方向性を示させていただいています。全体を振り返っ  
て、お気づきの点、聞いておきたい点、確認したい点等ありましたら、お  
願いします。

(委員) 6つの視点は、よくまとめられているというのが感想です。今後、地域の方々に、この辺を元に説明をしていくということだと思っておりますが、この6つの視点はとても多角的です。  
1つずつ見ると、「生徒の教育環境」は子供目線、「学校の教育指導」は教員目線、「生徒の通学」「学校と地域との関わり」は親や大人目線です。「学校施設・設備」「移住される方」は行財政的な視点だと思います。これは多角的すぎて、地域説明会する上で、6つを全てクリアすることはまずできないと思います。どれに主眼を置いて説明していくのか、この中で優先順位はどこなのかというの、見えてこないと思っています。  
さきほど、ご意見があったように、「移住される方」はここに入るのか、というのが正直な思いです。中学校を、再編整備する、統合するということは、今ここにいる、北杜市にいる子供たちのために中学校を再編整備するということが主眼だと思います。私は親ですので、中学校に子供がいます。小中学校に通う子供たちのために今何をすべきか、将来にわたってどういう方向に進むべきか、それをいかに早くやるかというところが求められていると思います。やはり今いる子供たちの思いを反故にしないように早く進めるべきで、そのためにはどの視点を重点的に捉えて進めるべきか、ということなのだと思います。風呂敷を広げすぎてしまうと、収集つかなくなって、それぞれの視点に対する意見が出てくると思います。それをまとめられるかということです。このままだと厳しいと思います。

(委員長) ありがとうございます。今後の地域の説明会に向けての、ご意見ということになります。事務局は何かありますか。

(事務局) 今月の7日から地域説明会が始まりますが、ここでは保護者説明会で言った説明を中心に、また保護者から出た意見を元に、説明をしたいと思っております。本日、委員の皆様にご審議いただいている内容につきましては、まだ、その場では説明をしないということになります。

(委員長) 今回、統合を進めていく大きな理由は、やはり視点の1、2だと思います。

それに付随して、課題として出てくる視点が色々あるということで、地域の説明会については、視点1、2を中心にご理解をいただければと思います。その中で、おそらく地域との関わりについてのご意見も出てくると思いますが、本日、確認していただいたことも付け加えながら、説明していければと思います。

確かに、「移住される方」の視点というのは、今、学んでいる子供たちにとって主な視点ではないとは思いますが、ただ、北杜市は、今後も移住政策を進めていくと思っておりますので、配慮していきたい点ということで考えています。他、どうでしょうか。

(委員) 移住される方のところで、私も移住経験者です。北小が最後の年の9月に、子供3人と転校してきました。元々自分は大きい都市にしかいなかったもので、小さい学校にはちょっとした憧れがありました。それが決め手ではないですが、移住してきてその良さを見た上で、やはり年齢に合わせて中学校になったら規模が大きくなったことが、子供にとって良かったと思っています。早急に再編整備していただきたいと思っています。

バスのことで心配している方が沢山いらっしゃるのとはわかったのですが、先ほどのご意見のように、保護者の意見をすごく柔軟に聞いてもらえる環境があるということ、知らない保護者の方も多いたと思います。清里地区の方はしっかりと意見を言う方々ですが、我慢してしまう地域もあるので、不安はどんどん相談できるということ、どんどん示していただきたいと思っています。

コミュニティスクールのところで、北杜市を単位としてということは、いいなと思いました。今まだ始まったばかりで、もっと早くやってよと思うくらいゆっくりな速度ですが、地域の方の手助けはこれから絶対必要になるので、どんどん推進していただきたいです。北杜學もご存じない方が結構おられると思います。北杜學に名を連ねていただいた方々に、どんどん活躍していただくようにしていただきたいと感じています。

(委員長) 小さい学校と大きい学校を経験されて、それぞれの良さを共有していただきました。やはり、成長段階に適した形があるかと思えます。バスのこと、コミュニティスクールのこと、積極的にそれを発信・活用してほしいというご意見でした。

(委員) 6つの視点について、説明会で触れる、触れないというお話がありましたが、この場で議論したことをベースに今後進めていくという理解でよいのでしょうか。

(委員長) 保護者への説明会、これから地域の説明会でもご意見をいただきますが、そこから得られた視点やそれに対する対応の方向性を確認できたところ

で、具体的な学区や統合のパターン等を考えていきたいと思っています。

(委員) 今後の方向性が決まらないと、改修の計画が立てられないとされていますが、北杜市の公共施設等の計画では、令和5年度に統廃合等に対しての方向性を示すということになっています。この委員会では統廃合のスパンに関することは話さないのでしょうか。

(委員長) 公共施設の計画の方では、公共施設のあり方としての方向性が出されているわけですが、特に、学校につきましては、教育的な要素がありますので、それらと整合を図りながら進めていくということかと思います。公共施設の方は、30年後を見据えています。それは短くてもいいわけですので、先ほどからありますように、中学校の問題につきましては、早くしてほしいというご意見もありますので、30年ということにはこだわらないで、準備でき次第ということになろうかと思います。

他、ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

11月7日から、地域での説明会が始まります。地域の方からまた色んなご意見が出てくると思いますが、1番肝心なのは、先ほどのご意見にもありましたように、中学生にとってどういう環境が望ましいのかということ、そして、なるべく早くその環境を提供できるようにしていくことだと思っています。

その他を含めて、事務局、それから委員の皆様から何かありますでしょうか。事務局はいいでしょうか。では、本日の議事は以上で終了とさせていただきます。